

3年生保護者の皆さん

たつじんテストの授業での活用について

松江市立古江小学校

寒冷の候、ますますご健勝のこととお喜び申しあげます平素より本校の教育活動に対しまして、ご理解ご支援を頂き熱く御礼申しあげます。

さて、今年度から松江市教育委員会では、3年生を対象に「たつじんテスト」を実施しています。totoru にて6月6日付けでお伝えした通り、本校では6月26日に行いました。この「たつじんテスト」は、各教科の成績を測ったり、評定の資料としたりするものではなく、教科学力の基盤となると考えられる「言葉、語彙」「数、形、量」「思考力、推論力」等に関する学習のつまずきを、教員の既存の知識や経験に加えて、客観的に把握するためのものになります。保護者の皆様のなかには、「テストの結果をどのように活用しているか」など疑問をもたれている方もいらっしゃると思います。テストの結果からつまずきの根本的な理由を機械的に分析されるわけではなく、正解した問題や間違えた問題から一人一人のつまずきの根本的な原因を教師が捉え、仮説を立てるためのガイドとして役立てる位置付けするために実施しています。例えば、図形を逆さまにした物をイメージできなかったり、異なった形の図形を合体させた物のイメージができなかったりするなどの図形の回転や合成が苦手なこどもの中には、算数の図形問題だけでなく、「文字の形を認識する力」が弱いため、漢字を覚えるのが苦手だったり、黒板を書き写すのが遅かったりする可能性があるのでと、問題の回答とこどもたちの学校生活の様子とリンクさせながら仮説を立てています。

そこで本校では、「たつじんテスト」の結果から、こどもたち一人一人に合った指導ができるように以下に挙げる取り組みを行っています。今回は、2つの大きな取り組みについて紹介します。

一つ目に、算数の少人数指導です。少人数で授業を行うことで、こどもたちが「どう考えたか」「どこで悩んでいるか」といったプロセスまで目を配ることができます。また、学級を2つに分け、こども一人の特性にあった指導ができるように学期ごとにクラス構成を考えています。

二つ目に、数の数量関係について実際の感覚を伴った理解が得られていない子どもが多い学級では、小数や分数の学習の際に、「量感」をつかめるように具体的な操作をもちいる活動を多く取り入れています。

＜実際の授業＞

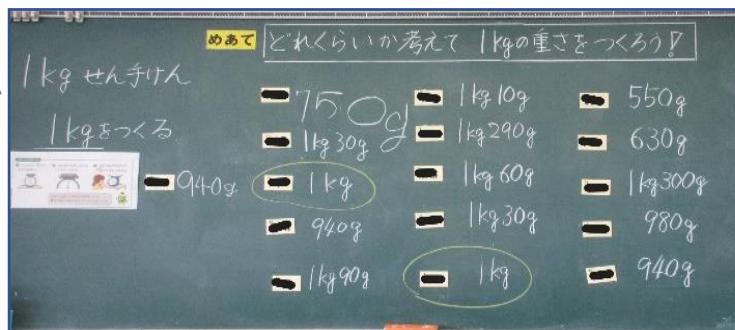


●あまりのあるわり算(上p102~103)

式のかき方、よみ方を指導する際に、言葉と操作（具体物）や図を結びつけて考えることを大切にしている。式の「 $13 \div 3 = 4$ あまり 1 」が図のどこのことかを確かめることに重点を置いた。

●重さ(上p120)

教科書では、1 kgをつくる内容だが、1 kgの重さの量感を身につけることができるようするために競わせた。また、教室の中にあるもので 1 kgをつくった。何度もはかりにのせてクイズを楽しむようにするのではなくはかりにのせるのは 1 回限りとしてより 1 kgを意識できるようにした。



●円と球(下p2~5)※教科書とは異なる展開



教科書では学習の導入で、「こまをまわそう」という活動を行う。こまに書いた点がこまを回すと点の軌跡が『まるの形』になるということから円の概念について学習していく。学級の実態等から、こまを回して、中心からの距離に着目するより、「玉入れゲーム」で公平にゲームをするには、どうしたらよいか(=距離を等しくする)の活動を行う方が中心からの距離について意識すると考え、授業で扱った。

●何倍でしょう(下 p14~15)

図や絵を使って何倍になっているかをイメージしやすいようにした。「何倍か?」を考えるときに、もとにする大きさを見つけにくいことが予想される。何と何を比べているのかを理解するためには、言語能力の影響が大きいので、2つの関係を図に表して視覚的に理解するようにした。



※言葉について

『日が短い』という言葉からどの季節をイメージするかという問いに悩む子どもが多く見られた。考えられる理由として、

- ・日の出や日の入りの時間が変わることに気づいていないのではないか。
- ・「日」という言葉にはいろいろな意味や読みがあり、想像できなかつたのではないか。
- ・教師が普段、「太陽が出ている時間」など該当学年にわかるような言葉に言い換えて伝え過ぎているのではないか。

など、考えられる。そのため、子どもが何気なく使っている言葉でも意味を十分に理解していかなかったりするので学習の中で言葉と意味を結びつけることを大切にしている。

「たつじんテスト」は今年度から始まった取組ですが、子どもたちのつまずきの根本的な原因を考え授業を改善することは、以前から行っています。子どもたちの学習の様子や成果を踏まえて、授業の進め方や指導方法を改善したり、子どもたちの能力にあわせて指導内容に軽重つけて指導したり、教科書とは違う問題や学習形態をとっています。

今後も、絶えず指導の仕方をふりかえり、子どもたち一人一人にあった指導の探究をしてまいります。ご意見・ご質問等ありましたら、気軽に学校にお問い合わせください。また、たつじんテストの問題や概要については、以下のQRコードをご参照ください。

たつじんテストの問題や概要について
(Youtube) →

